第四講　傍線部内容説明問題解法　30分

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

A論理についてわれわれは三つの次元を考えることができる。ひとつは論理学で問題とする形式論理である。多くの日本人は知識としてこの論理を知ってはいても、生活には融けこんでいない。何かひどく冷たいもののように感じている。それによってものを考え表現することはむしろまれであろう。

もうひとつは、日本語に即した論理で、これは日本語を使っているときには多少ともたえず作用しているはずのものであるが、ほとんど意識されることがない。しいてとりだすならば形式論理とはちがった不定形で柔か味のある道理とか筋道のようなものとなるであろう。さらに、この硬軟二つの論理の間に、和訳文の論理が考えられる。これは、外国語と母国語を比較して外国語の発想と表現が母国語といちじるしくちがうという実感にもとづく、比較論理とも言うべきものによって育てられる論理の意識である。明治以来の知識人のいだいてきた論理コムプレックスもこれに根ざし

ているのである。わが国における外国語学習者の数が激増してほとんどすべての国民が外国語を学ぶ経験をもつようになっている現在、外国語に内包されている論理と母国語の無意識的論理との摩擦で生じるこの第三の論理の重要性はいよいよ大きくなりつつあるように思われる。

　ここでは、形式論理は一応問題から外して、日本語に即して認められる論理を中心に、翻訳を媒介として認められる比較論理の問題も加味して考えて行くことにしたい。

　日常の言語活動における論理は、話の筋道といったごくインフォーマルなものである。どんな場合でも、言葉に筋道が通っていなければ、伝達は成立しようがない。「筋」とか「筋道」とかいう語が示しているように言語に内在する論理性は何か「線」のようなものと感じられているのが普通である。

　表現の受け手はこの言葉の筋道をたどりながら理解を進めて行くわけだが、送り手との間の心理的関係の親疎によって筋道の性格も変ってくる。送り手と受け手が未知の人間であるような場合、筋道はしっかりした線状をなしていて、受け手がそれから脱落しないようになっていなくてはならない。論理は密でなくてはならないのである。その典型的な例は法律の表現で、ここでは受け手がときとしてはまったく対立する観点に立っている

ことがある。したがって B表現の道筋はあくまで太くしっかりしたものである必要がある。かりにもその筋を外した解釈が可能であっては不都合がおこるからである。多くの人々が法律の条文を(ア)うるさいものと感じるのは偶然ではない。送り手が受け手を信頼していないのである。法律でなくても、受け手の連帯感が保証されていないとき、表現は C念には念を入れて、誤解のおこらないように配慮されたものになる。緊密な論理はその結果にすぎない。

　これと反対に、受け手がごく身近かに感じられているときの表現はわかりきったことをくどくどと説明する必要がない。要点だけをかいつまんでのべるだけで誤解も生じない。言語の冗語性も小さくてすむのである。一般にお互いが熟知しているような集団の内部においては形式的論理はむしろ(1)ケイエンされる。その代表的な例は家族同士の会話である。第三者が聞けば何のことかまるでわからぬような省略の多い(2)ヒヤクした言い方をしているが、それでけっこう話は通じ合っている。形式論理から見れば没論理と言えるかもしれないが、まったく論理を欠いているというわけでもないであろう。［甲］別種の論理が作用していると見るべきである。

　相互によく理解し合っている人間同士の伝達においては言葉の筋道はつねに完全な線状である必要はないことが多い。要点は注目されるが、それ

以外の部分はどうでもよい。(イ)等閑に付されたところはやがて風化がおこるであろう。こうして、方々が風化して線に欠落ができると、線的な筋が点の列になって行く。D親しいと感じ合っている人たちの間の言語における論理は線ではなくて点の並んだようなものになっている。

人間には、こういう点をつなげて線として感じとる能力がだれにもそなわっているのである。［乙］、点的論理が了解されるところでは線的論理の窮屈さは(3)ヤボなものとして嫌われるようになる。なるべく省略の多い、［丙］、解釈の余地の大きい表現が含蓄のあるおもしろい言葉として喜ばれる。点を線にするのは一種の言語的創造をともなうからであろう。点の線化は昔の人が星の点を結び合わせて図形を読みとり、名を冠して星座をつくりあげたことなどにもあらわれている。

日本語はヨーロッパの言語が陸続きの外国をもった国で発達したのとちがって、島国の言語である。同一言語を同一民族が長い期間にわたって使っていれば、相互の了解度はきわめて高くなる。家族語におけるような論理が社会の広い範囲に流通していると考えてよい。そういう日本語の論理は線的性格のものではなくて、点的性格の方がよく発達しているのは自然のことである。念には念を入れた、がっちりした構成の表現はむしろ重苦しいものと感じられる。上手な人のうつ囲碁の石のように一見は飛んで

いるようであっても、その点と点を結び合わせる感覚が下敷きになっているときは決して非論理でも没論理でもなく、りっぱに「筋」をもっているのである。

　日本語が論理的でないように考えられるのは、ヨーロッパ語の線的論理の尺度によって日本語をおしはかるからである。成熟した言語社会の点的論理を認めるならば日本語はそれなりの論理をもっていることがわかる。よく引き合いに出される禅にしても、点的論理の概念をとり入れることによって、その独自の論理性は充分合理的に説明できるはずである。また、E俳句の表現もいわゆる論理、線状の論理からは理解しにくいものであるが、点的論理の視点からすればきわめて興味あるものになる。考えようによっては、点的論理がよく発達した言語社会だからこそ俳句のような短詩型文学が可能になったのだと言うこともできる。

（外山滋比古『日本語の論理』。ただし、本文に一部省略がある。）

問一　傍線部(1)〜(3)の片仮名の部分と同じ漢字を使うものをそれぞれ一つずつ選び、数字で答えよ。

(1)　ケイエン

1　ケイヤク書にサインする
2　新聞にケイサイする
3　日本文化にケイトウする
4　社長の実行力にケイフクする

(2)　ヒヤク

1　ヤクワリを分担する
2　面目ヤクジョ
3　ヤクミを入れる
4　ヤクソクを果たす

(3)　ヤボ

1　フンボを発掘する
2　憧れの人にレンボする
3　おセイボを贈る
4　チョウボをつける

問二　傍線部(ア)と(イ)の本文中の意味として最も適切なものをそれぞれ一つずつ選び、数字で答えよ。

(ア)　うるさい

1　複雑でわずらわしい
2　難解で理解しがたい
3　耳障りで困る
4　長すぎて読みにくい

(イ)　等閑に付された

1　均等に取り扱われた
2　ほどほどに注意を向けられた
3　徐々に忘れられた
4　特に気にも留められなかった

問三　傍線部A「論理についてわれわれは三つの次元を考えることができる」とあるが、その三つとは何か。最も適切な組み合わせを一つ選び、数字で答えよ。

1　形式論理――母国語の無意識の論理――不定形で柔か味のある論理
2　形式に即した論理――日本語に即した論理――硬軟二つの論理
3　形式論理――日本語に即した論理――和訳文の論理
4　形式論理――比較論理――和訳文の論理

問四　傍線部Ｂ「表現の道筋はあくまで太くしっかりしたものである必要がある」とはどういうことか。最も適切なものを一つ選び、数字で答えよ。

1　誰からみても中立的な立場で事実にそくした内容を正確に表現する必要がある。

2　難しい法律用語を使った情報量の多さに不満が出ないように表現する必要がある。

3　不特定多数の人間が読んでも理解できるように分かりやすく丁寧に表現する必要がある。

4　疑いをもたれないようにあらゆることを想定して過不足なく明確に表現する必要がある。

問五　傍線部Ｃ「念には念を入れて」に最も近い意味の慣用句を一つ選び、数字で答えよ。

1　急がば回れ　　2　石橋をたたいて渡る　　3　念ずれば通ず

4　転ばぬ先の杖（つえ）

問六　空欄［甲］、［乙］、［丙］に入る語の組み合わせとして最も適切なものを一つ選び、数字で答えよ。

1　したがって――むしろ――言いかえると
2　したがって――言いかえると――むしろ
3　むしろ――したがって――言いかえると
4　むしろ――言いかえると――したがって
5　言いかえると――むしろ――したがって
6　言いかえると――したがって――むしろ

問七　傍線部Ｄ「親しいと感じ合っている人たちの間の言語における論理は線ではなくて点の並んだようなものになっている」とはどういうことか。最も適切なものを一つ選び、数字で答えよ。

1　親しい人間同士では疑問の生じない明確な情報伝達よりも、あいまいな言葉の表現が好まれること。

2　親しい人間同士は普段からお互いを知り尽くしているので、何も言わなくても理解しあえること。

3　親しい人間同士でも時間の経過とともに疎遠になり、最後は出会った時点の思い出が残ること。

4　親しい人間同士だと、細かな説明もなく要件だけを伝えれば、お互いに十分理解しあえること。

問八　傍線部Ｅ「俳句の表現もいわゆる論理、線状の論理からは理解しにくいものであるが、点的論理の視点からすればきわめて興味あるものになる」を説明したものとして最も適切なものを一つ選び、数字で答えよ。

1　俳句の論理は、簡略化されているため読み手の側に言語的創造が許されている。

2　俳句は、文章としての表現形式よりも単語のもつ音声的リズムを特に重視している。

3　俳句は、西洋語に翻訳できない日本語独特の論理に基づく文法が反映されている。

4　俳句の作り手は、読み手にいつも親しみを感じているので表現を簡略化している。

問九　本文の内容と合致しないものを一つ選び、数字で答えよ。

1　ほとんどの日本人が外国語を学ぶようになったことにより、それまでになかった論理的な文章を認識し、それを学ぶようになった。

2　点的論理の背後には線的論理が隠れていているが、日本人はそのことに気づかず、日本語は線的論理にはそぐわない言語だと思っている。

3　日本人は点的論理を重んじるが、これは線的論理と全く切り離されたものでなく、受け手側に言語を統合する能力があることが前提となっている。

4　西洋人の線的論理にせよ、日本人の点的論理にせよ、これらは情報の送り手と受け手の信頼関係の度合いによって形成された相対的なものである。

問一

(1)

(2)

(3)

問二

(ア)

(イ)

問三

問四

問五

問六

問七

問八

問九

第四講　傍線部内容説明問題解法　解答

問一
(1) 4
(2) 2
(3) 3

問二
(ア) 1
(イ) 4

問三
3

問四
3

問五
2

問六
3

問七	問八	問九
4	1	1